

とらやまの森



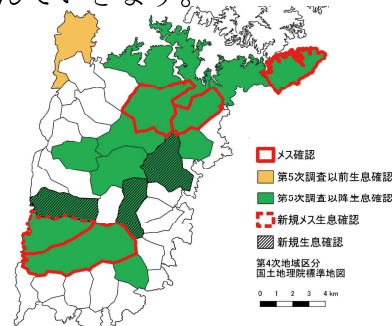
下島でヤマネコ生息確認地域 拡大中!



厳原町上槻で確認されたツシマヤマネコ

一度は生息の確認が途絶えてしまった下島のヤマネコですが、平成19年3月に厳原町内山で生息が確認されて以来、少しずつ生息確認地域が広がっています。生息確認は主に自動撮影カメラと痕跡調査によって行われています。令和5年度には、新たに3カ所（厳原町北里・下原・上槻～久根浜周辺）で生息が確認され、1カ所（厳原町久根田舎周辺）ではメスの生息が確認されました。上島に比べると下島でのヤマネコの生息はまだ安定しているとは言えませんが、島内どこでもヤマネコに遭遇する可能性があります。これにより、上島で発生しているような交通事故や錯誤捕獲などの人為的な要因での死傷が下島でも増加する可能性があります。実際に、下島と上島を結ぶ美津島町大山では、今年の1月2日と2月17日に立て続けに交通事故が発生しました。また、美津島町洲藻では昨年4月に錯誤捕獲されたヤマネコ（Beny Sumo）

が負傷し、保護されています。下島のヤマネコの生息状況には明るい兆しが見えています。この流れを断ち切らないよう、今後も生息を阻害する要因への対策に取り組んでいきます。



※第5次調査は平成30年～令和元年実施

目撃情報を募集しています。

下島での生息確認が調査でわかってきましたが、依然情報は少ない状態です。もし、ヤマネコ（らしき）生き物を見かけたら、対馬野生生物保護センター、ツシマヤマネコ野生順化ステーションまでご連絡ください。みなさまの情報がヤマネコの保全に役立ちます。

ヤマネコ通報対応中



耳の裏が白いのが特徴です

対馬野生生物保護センター ツシマヤマネコ野生順化ステーション
0920-84-5577(24時間対応) 0920-57-0101(8:30~17:15)

開館時間と休館日のお知らせ

【開館時間】 10:00～16:30（入館は16:00まで）
【休館日】 月曜日（月曜日が祝日及び振替休日の場合は開館。翌日火曜日が休館になります）

やまねこ News

動物園で2024年に誕生したヤマネコたち

今年の繁殖は名古屋市東山動植物園が大舞台でした。センターから移動したBeny Sumo（オス）はレイラ（メス）とのペアで、そしてステーションから移動したりん（メス）は勇希（オス）とのペアでそれぞれ繁殖に成功しました。各3匹と2匹の仔猫が生まれ、久しぶりに動物園などの飼育頭数は大幅増加し、計36頭となりました（6月1日時点）。

Beny Sumo（ベニー スモ）はくくり罠による錯誤捕獲のため左前肢を失っており、ハンディキャップがあるヤマネコでは繁殖が難しいと言われてきました。また、りんも移動後すぐのメスの繁殖は難しいと言われてきました。2匹ともそのような逆風を跳ね返してくれた結果となり、とても嬉しい報告でした。

動物園で自然分娩した場合、飼育員が仔猫に触れるのは何らかの異常を認めた時だけです。このように人ができるだけ介入しないのは、人の臭いがつくことで

母親が仔猫を殺してしまうことを防ぐためです。母親には餌を与えますが、できる限り刺激を与えないように産箱等に設置したカメラによる観察を続け、生後約2ヵ月後に行う最初の健康診断やワクチン接種の時に初めて飼育員が仔猫に触ることになります。

りんと赤ちゃん（東山動植物園提供）



東山動植物園正門（東山動植物園提供）



Mk-109「ひかり」について

令和5年7月に対馬市上県町檜滝の路上で救護された当時、幼獣だった「Mk-109 ひかり」は、対馬野生生物保護センター（上県町）での治療、リハビリを経て、同年10月からツシマヤマネコ野生順化ステーション（厳原町）で野生順化訓練を受け、令和6年4月に放獣（野生に返すこと）しました。放獣後、生存

状態の確認を目的に追跡調査を実施していましたが、5月18日に地域の方から衰弱したヤマネコがいるとの通報があり、救護に駆けつけたところ、ひかりの死亡が確認されました。今回の件に関しては、大変残念な出来事ではありますが、現在検証中であり、今後の保全事業に活かしていきたいと考えています。

対馬の環 News

今回の対馬あの人、この人は…

No.32 現：一般社団法人 MIT（元対馬野生生物保護センター飼育スタッフ）

ありかわ
有川 ゆう さん

現在はどんなお仕事をされていますか？

今は一般社団法人 MIT（サステナブルショップ・ミット）に勤めていて、販売を担当しています。ツシマヤマネコのグッズや「佐護ツシマヤマネコ米」というお米の販売が主な仕事です。また、お米を作っている「佐護ヤマネコ稲作研究会」の事務局も担当しています。



有川さんは生まれも育ちも対馬ですが、対馬の魅力はどんなところでしょうか？

小中学校の頃は対馬より都会に憧れていて、幼少期にはそんなに魅力を感じていなかったんです(笑)。でも一度都会に出て U ターンしてからは、普通に暮らしているだけでシカやイノシシ、テンに出くわし、ヒトと生き物が同じ場所に共存しているのを感じるようになりました。対馬での暮らしはヒトと生き物どっちが良い暮らしをするかではなく、お互いがより良い暮らしをするためにはどうしたら良いかを考えさせられるところが魅力です。対馬って「ちっちゃな地球」だなあと感じています。

今後の展望や目標をお聞かせください。

対馬野生生物保護センターで飼育員の仕事をしていたときは、ヤマネコへの関心をもっと高めてほしいと思っていましたが、環境を豊かにするためには、まずはヒトの暮らしが豊かでなければならないと考えるようになりました。ヒトがより良く暮らすことで環境にも良い影響があると感じています。今後は、対馬で「木育」を進めたいと思っています。対馬にはたくさんの木がありますが、それを活用して資源も経済も循環させることが重要です。森を循環させ、対馬の子どもたちに対馬の木で作ったおもちゃに触れてもらい、自然の豊かさと貴重さを体験してもらいたいです。ヤマネコが好きな人もそうでない人も平等に楽しめるおもちゃを届ける、だけど最終的にはヤマネコのためになっちゃうようなプロジェクトを作りたいです。

店舗紹介

サステナブルショップ・ミット～いきもの雑貨店～〒 817-1602 長崎県対馬市上県町佐須奈甲 562-24
TEL：0920-84-2366 営業時間：9:00～17:30（不定休）

新職員のごあいさつ 4月に新たに加わったセンターのスタッフをご紹介します



対馬野生生物保護センター
アクティブレンジャー

もりた ゆうき
森田 夕貴

アクティブレンジャーになりました森田です。対馬に来る前は、水族館で魚類・水生生物の飼育員をしていました。対馬の生き物が安心して暮らせるように日々頑張ります！よろしくお願いします。



対馬野生生物保護センター
事務補佐員

こみや はるな
小宮 遥奈

事務補佐員になりました小宮と申します。今年の春に高校を卒業いたしました。生まれも育ちも対馬ですが、まだまだ知らないことばかりなので日々学んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

舟志の森自然観察会の開催

6月2日(日)上対馬町舟志地区で舟志の森推進委員会主催の自然観察会を開催しました。参加者は森の散策をしながら、講師である元島おこし協働隊の掛澤明弘さんから植物等の説明を聞き、森の3カ所で、日当たりの良さや土の湿り具合、生えている植物の種類などを比べてもらいました。

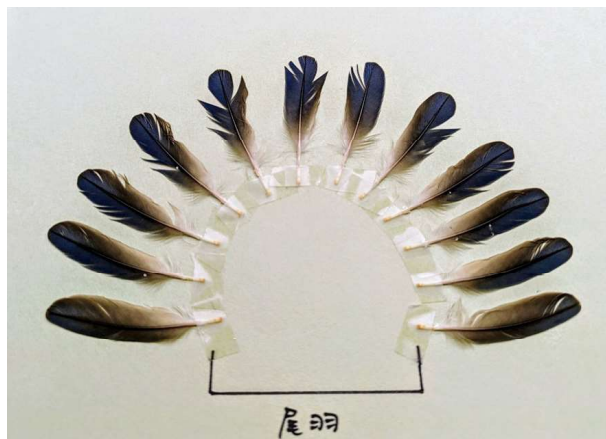
最後は「今よりもよりよい森にするにはどうすればいいか?」を各自で考えてもらい、同じ森の中でも場所によって違いがあり、よりよくするための方法も異なることを、楽しく学習しました。



センターバックヤードから

今回の一品 カワセミの羽

対馬野生生物保護センターには、1階の展示以外にも標本室があります。一般公開はされていませんが、『とらやまの森』でご紹介できればと思います。今回はカワセミの尾羽をご紹介します。カワセミといえば清流の女王と言われる特有の翡翠色ひすいの美しい体ですが、羽の根本部分は灰色で意外に地味な羽根ですね。



対馬にいる生き物を紹介します

第18回 ツシマフトギス

褐色の体に黄緑色のお腹が映えるツシマフトギスは、対馬固有のバッタです。植物やミミズなどを食べる雑食性で、夏頃に見ることができます。お尻にある棘のようなものはメスのみが持っている産卵管はねという器官で、これを地面に刺して卵を産みます。翅が退化して人が寄っても飛んで逃げることができないため、じっくり観察することができる生き物です。

